

# 文京区立第九中学校 校長室通信

## 「文京九中 ここにあり」



平成28年度 第6号  
平成28年10月21日発行



文京区立第九中学校 校長 小 椋 孝  
■ TEL 03-3821-7178 ■ FAX 03-5685-4955  
■ H P <http://www.bunkyo-kyo.ed.jp/daikyu-jh/>

### 学習発表会 [10月29日(土)] まであと1週間!

10月も半ばを過ぎましたが、寒暖の差が激しい日々が続いており、健康面への影響が心配されます。休養をしっかりと取りながら、メリハリのある生活を送ってほしいと願っています。

さて本校では、春の運動会と「二大行事」と並び称される「学習発表会」を10月29日(土)に開催いたします。行事の大成功を期して学習発表会実行委員会がスローガンを決定し、合唱、舞台、展示、放送照明の各委員に分かれて具体的な活動を開始しています。発表会まであと1週間となり、「合唱コンクール」「舞台発表」「展示発表」の各部門で生徒たちの取組が本格化しています。朝や放課後の活動も多くなっていますが、ご協力いただけますようよろしくお願い申し上げます。

平成28年度 学習発表会スローガン

**咲き誇れ 努力 歓喜 青春の華**

#### <当日の主な時程>

- ◇開会式 8時30分 (体育館には、8時15分から入場できます。)
- ◇舞台発表 [午前の部] 8時45分～12時10分 合唱コンクール、科学部、PTA合唱、吹奏楽部  
[午後の部] 14時00分～15時40分 映画・演劇部、3年全員合唱
- ◇展示見学 8時30分～15時00分
- ◇閉会式 15時10分



#### <お詫び> ～ 展示会場に変更がございます ～

学習発表会の準備の関係で、科学部の展示会場を変更することになりました。当日は、玄関をはじめとして掲示でその旨をお知らせするとともに、受付にて訂正版をお配りする予定です。

直前の変更でご迷惑をお掛けして誠に恐縮ですが、何とぞよろしくお願い申し上げます。

**【科学部の展示会場】 新館3階武道場 → 本館3階第二多目的室 に変更**

## 九中の特色！「新聞への意見文」投稿 ～ 2学期掲載分の紹介（その2）

本校の特色ある教育活動の一環として、今年度も新聞への意見文投稿を勧めています。前号に引き続いて1年生1人、2年生2人の意見文が掲載されましたので紹介します。

※ 毎日新聞「みんなの広場」 平成28年10月13日（木）掲載

### 移動教室で学んだ友情と協力

中学生 吉沢 萌乃果（12） 東京都文京区 [1年1組]

私は、ハヶ岳の移動教室に行って学んだことがいくつかあります。その一つが友情と協力の心です。山登りの時のことです。私は体力があるわけではなく、運動神経も皆無に等しいのです。だから、登って1時間もたたないうちに疲れてしまいました。だけど、私は登り切りました。今考えると、一緒に登ったみんなのおかげだと思います。「しんどい」と一緒にグチり合ったり、「がんばって」と友達と励まし支え合ったりしました。だから、私のつらい体は、がんばろうと思い、山を登り切れたのだと思います。ハヶ岳の生活全体でも同じことを感じました。ウォークラリーの時も、食事の準備の時も、ナイトハイクの時も、参加者全員で協力したからこそ、楽しく過ごせたと思います。移動教室での友情は見せかけやきれいごとではありません。私は心底、友情と協力の大切さを感じました。

※ 東京新聞「若者の声」 平成28年10月19日（水）掲載

### 園児に学んだ働く意義

中学生 柿沼 寿美（14） 東京都文京区 [2年3組]

授業での職場体験の前に、風邪をひいてしまったため、たった1日だけの体験になってしまったけれど、近くの幼稚園に行き、たくさんのことを学んだ。園児が登園し、全員そろった。クラスになじむのはなかなか難しいと思っていたら、女の子が話しかけてくれた。私はこれだけですごくうれしくて、やっと一歩踏み出すことができたと思った。その子としばらく遊んでいると、どんどん他の子が集まってきて、気付いたら男女関係なくたくさんの子がいた。最初の女の子のおかげで、たくさんの子と仲良くなることができた。お弁当の時間は、その子と隣どうして食べた。そのとき前にいた男の子が私を指さして、「嫌い」と言った。ああ、やっぱりこういう子もいるよな、と思い、適当に笑ってごまかした。でも、お弁当のあとにはその男の子とも一緒に遊んだ。帰りの時間になり、親の迎えを待った。迎えが来た子から帰り始める。その様子を、私はただ立って見ていた。すると最初の女の子が、お母さんと一緒に私のところに来た。「ばいばい。ありがとう」笑顔で御礼を言ってきてくれた。お礼を言うのはこっちなのに。こちらこそって、笑顔で見送ると、「嫌い」と言っていた男の子が来た。「また来てね。ばいばい」お弁当のときは嫌いって言っていたのに。充実しすぎて、あっという間の1日だった。働くって、人のためだけでなく、自分のためでもあるんだなって思った。

※ 東京新聞「若者の声」 平成28年10月19日（水）掲載

### 演劇から学ぶ 仲間信じる力

中学生 伊沢 堇（13） 東京都文京区 [2年3組]

演劇「チャージ」は私に教えてくれた。人を信じ、支え合うということは「人を認める」ことであると。学校の演劇鑑賞教室で劇団「銅鑼（どら）」の劇を見た。個々の多様な考えを持つ人々が意見を出し合い、ぶつかり合う濃い人間ドラマである。家族を守るため、生きていくため、働く理由はそれぞれだが、何より仕事と信頼できる仲間を誇りを持ち続ける登場人物たちの姿に心動かされた。自分にも自信を持てるくらい仲間を信じ、高め合っていきたい。私は今、自分のクラスが好きだ。「チャージ」を見て、仲間を信じる思いがさらに磨かれた気がする。これからもっとみんなと認め合い、切磋琢磨し、補い合っていこう。